

近江鉄道

「彦根城世界遺産登録応援号」

車内ポスター（全34種類）

彦根城の世界的な価値

不戦の城
江戸時代の彦根城
彦根城の外観を読み解く
彦根城の内部を読み解く
文化あふれる江戸時代

彦根城内に関すること

彦根城天守
西の丸三重櫓
彦根城馬屋
玄宮楽々園
能舞台
藩校弘道館
庵原家長屋門
埋木舎

城下に関すること

天守を望む路地
足軽たちの町
大洞弁財天
彦根仏壇
井伊神社
お浜御殿
朝鮮通信使

私たちの彦根城

ポスターコンクール
子どもガイド
みんなで田植え
お茶の心で

近江鉄道沿線スポット

青岸寺庭園
多賀大社
藤堂高虎
阿白岐神社庭園
無賃橋
金堂の集落
八幡堀
布施の溜
日野祭
水口城



Hikone Castle Town
彦根城を世界遺産に

彦根城の価値

不戦の城

江戸時代の城は
戦闘を知らない

城郭は、「戦い」のために造られた。と多く人は信じている。

しかし、江戸時代の城の大多数は、「戦い」に使われた経験がない。

しかも、関ヶ原合戦時の大津城籠城戦や大坂の陣などを経験し、決して城郭が「戦い」の中で万能ではないことも経験した。

それにもかかわらず、江戸時代は「城郭」を必要とした。

彦根城の世界遺産登録では、そこに価値を見出そうと考えている。



Hikone Castle Town
彦根城を世界遺産に

彦根城の価値

江戸時代の 彦根城

統治拠点としての4つのポイント

江戸時代の彦根城は、彦根藩・井伊家 30 万石の統治拠点として利用された。
その彦根城には、江戸時代の政治に関する 4 つの特徴を読み取ることができる。

- ① 平野部に存在する小高い山を利用して、目立つように設計されていること。
- ② 圧倒的な堀・石垣に囲まれた、完結した政治の空間を形成していること。
- ③ 効果的に各種の儀礼が行えるように作られていること。
- ④ 藩主、井伊家は将軍を補佐する家柄で、最も典型的に城郭を営んだこと。



Hikone Castle Town
彦根城を世界遺産に

彦根城の価値

彦根城の外観 を読み解く

統治拠点としてのポイント

堀と石垣に囲まれ、外部から隔絶するとともに、最高所に天守を構えるなど、彦根城の外観は、江戸時代の藩による政治の特徴を示している。

すなわち、①幕府に認められた存在であること。②独立した地方権力であること。

③領地の繁栄と安定に責任を持つ唯一の存在であること。

こうした外観を見せることによって、武士たちには自らの責任を、領民には社会の安定をイメージさせた。



Hikone Castle Town
彦根城を世界遺産に

彦根城の価値

彦根城の内部 を読み解く

統治拠点としてのポイント

彦根城の内部は、天守という象徴的な存在を中心として、大名の住居である表御殿と、政治に参加する全ての重臣の屋敷が集められた。

この配置は、藩主の独裁で政治が行われるのではなく、重臣（家老）たちの合議によって、政策が決められたことを示している。

また、江戸城で行われる種々の儀礼が、彦根城でも実施できるように、庭園や能舞台も作られた。幕府の方針を、正しく領地に伝えるためである。



国宝 彦根屏風（部分）・彦根城博物館蔵



Hikone Castle Town
彦根城を世界遺産に

国宝 彦根^{びょうぶ}屏風

文化あふれる 江戸時代

江戸時代の魅力とは

江戸時代の政治の特徴を一言で言えば、それぞれの身分の役割が明確にされ、責任をもって、それぞれの役割を果たすことが求められたことである。厳しい身分制度の時代であった反面、それぞれの役割・責任を果たしていれば、その他の活動を行うことも可能であった。これによって、武士や領民の身分を超えて、経済活動や文化活動が活発になった。国宝彦根屏風は、その生き生きとした時代を表現する代表的な作品である。



Hikone Castle Town
彦根城を世界遺産に

国宝

彦根城天守

城主は天守に登ったのか？

江戸時代、彦根城の天守はどのような意味を持っていたのか？

もちろん、城主・井伊家の住居ではない。

江戸で育ち、当主の地位を継いだ、新しい藩主の最初のお国入り。

その時、藩主は初めて天守に登った。そして、京都の方向と江戸の方向に拝礼し、領地を望み、自らの責任の遂行、安定した統治の実現を誓った。

また、天守の中には、歴代藩主の甲冑などの重要物が、象徴的に保管された。



Hikone Castle Town
彦根城を世界遺産に

重要文化財

西の丸^{さんじゅうやぐら}三重櫓

琵琶湖に向かってそびえる城

江戸時代の彦根城では、天守の他には、西の丸三重櫓と、山崎丸三重櫓の2棟が、3階建ての建物だった。いずれも、彦根山が琵琶湖方向に伸びる場所に位置していた。現在は、天守とともに西の丸三重櫓が保存されている。天守に比べて装飾も少なく、地味な建物であるが、現在も琵琶湖を往く船に、その威容を示す。彦根城は、水城でもあったわけだ。



Hikone Castle Town
彦根城を世界遺産に

重要文化財

彦根城馬屋

いわくつき高級車専用ガレージ

単なる馬小屋と思っ**て**はいけない。

ここは、井伊家と徳川將軍家の結びつきを象徴する、重要な施設である。

江戸時代、参勤交代によって、江戸を離れる井伊家の当主は、將軍に挨拶を行い、その返礼に馬一頭を拝領することが恒例であった。

この馬屋は、この大切な馬を飼育する場所。

大名が何よりも大切に**した**、將軍からの拝領品。そんな馬が、ずらりと並んだ。



Hikone Castle Town
彦根城を世界遺産に

名勝
げんきゅうらくらくえん
玄宮楽々園

本物の天守を望む
現存唯一の大名庭園

彦根城の城内には、大名庭園が現存する。大きな池を中心に、立石や組み石が配置され、木々の中、3棟の茶室も営まれた安らぎの空間である。

藩主たちは、薩埵林^{さつたりん}や武蔵野^{むさしの}など、各地の名所に見立てた景を楽しみつつ、和歌、茶道、香道、詩文などの文化活動に加え、乗馬や遠的などの武芸も行った。

ここは、武士たちの日頃の鍛錬の成果を藩主に披露する、心ざわつく場でもあった。



Hikone Castle Town
彦根城を世界遺産に

彦根市指定文化財

能舞台

江戸時代の校歌斉唱？

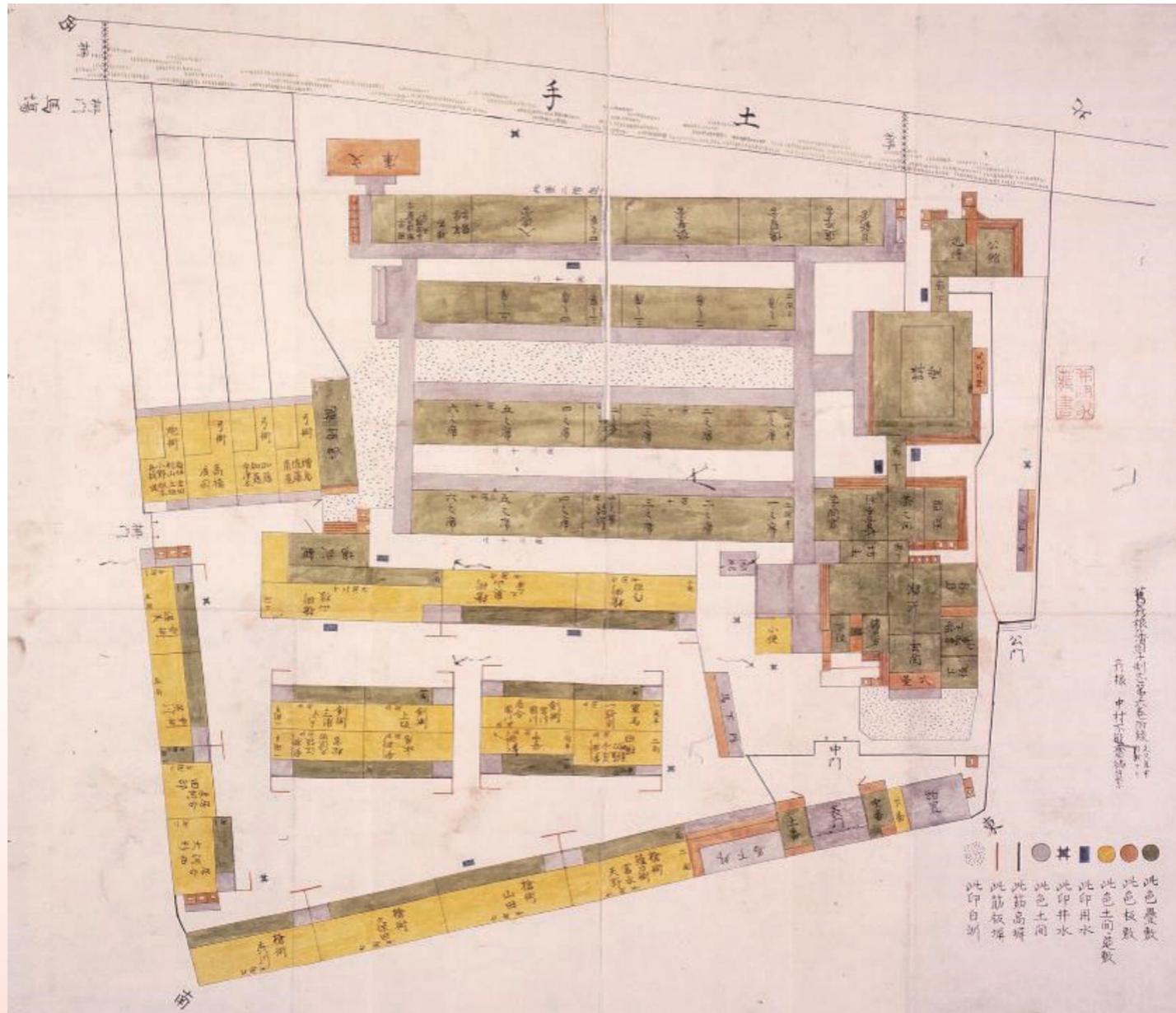
能楽は、武士の正式な式楽・芸能である。

江戸幕府が、何らかの儀式を行う場合は、能の上演を行うと定めたことにより、各地の藩でもこれになった。学校行事の校歌斉唱に近いかもしれない。

このため、城の中には能舞台が必需品となり、また、競って、能役者を召し抱えた。

彦根城に残る能舞台は、全国で唯一、城内の本来の場所をとどめる貴重な存在だ。

なお、信長で有名な「人生50年…」は能ではなく、幸若舞である。



弘道館絵図・彦根城博物館蔵



Hikone Castle Town
彦根城を世界遺産に

はんこうこうどうかん
藩校弘道館
武士の鍛錬の本質とは

1人の天才を生むための教育か？ 全体の底上げを果たすべき教育か？
教育方針についての激しい議論が戦わされた後、彦根城内に藩校弘道館（当初は稽古館）が開設されたのは、1799年のことである。
武士の子弟には、優秀な成績を上げることが期待されたが、より重視されたのは、「学問・武芸に励む」という気持ち・精神である。
その思想は、城内の彦根西中学校や彦根東高等学校にも受け継がれている。



Hikone Castle Town
彦根城を世界遺産に

彦根市指定文化財
いはらけながやもん
庵原家長屋門
堂々たる武士の屋敷

武士は格式を重視した。馬に乗れるか。どこに住むか。そして、住む家の外見は。長屋とは、屋敷を取り囲む細長い建物で、その一部を門としたものが長屋門。彦根藩では、長屋門は武家屋敷の正門であり、その規模が、そこに住まう武士の格式を表現した。

堂々たる姿を見せる旧庵原家の長屋門は、全国的にも屈指の規模を誇っている。さすが、彦根 30 万石のナンバー 2 クラスの重臣が住まう屋敷である。



Hikone Castle Town
彦根城を世界遺産に

うもれぎのや
埋木舎

彦根城の表玄関を飾る
直弼公も過ごした屋敷

開国の立役者、井伊直弼公が若き日に、心身の鍛錬に励んだ屋敷である。
その重要な屋敷が、なぜ、中堀から外側に営まれたのか。不遇の青年期の故だろうか。
確かに、井伊家子弟の屋敷の多くは、中堀の内部に営まれた。
しかし、佐和口の外側、いろは松から埋木舎の一角は、彦根城の玄関として重視され、
例外的に重臣屋敷や庶子屋敷が配置された場所である。
埋木舎は、彦根城の玄関を飾る重要な施設であった。



Hikone Castle Town
彦根城を世界遺産に

天守を望む路地

意外と見えない天守の威容

天守は彦根城の象徴である。

しかし、意外と城下町から見えない。小高い山の上に建つにもかかわらず、見えない。

考えれば、細い街路と密集した町屋や武家屋敷、見えなくても当然だ。

しかし、城下町の設計において、何本か基準となる街路が設定された。

電線や電柱が少々じゃまだが、ここからはよく見える。さあ、ここを探してみてください。



Hikone Castle Town
彦根城を世界遺産に

足軽たちの町

井伊家の福利厚生は完璧

足軽は、100石取り以下の最下層に位置する武士である。
彦根の城下町では、その縁辺部に、いくつかの組に分かれて暮らしていた。
多くの藩では、長屋に住み、決して恵まれた住環境とは言えない場合も多い。
しかし、彦根藩井伊家では、門・庭付き、3DK級の一戸建ての足軽屋敷だ。
その手ごろな住環境の故か、現在も30棟を超える足軽屋敷が残っている。



Hikone Castle Town
彦根城を世界遺産に

重要文化財

おおほらべんざいてん

大洞弁財天

領民総意のクラウドファンディング

佐和山の西麓には、^{せいりょうじ}清涼寺・^{りょうたんじ}龍潭寺など、井伊家ゆかりの社寺が並ぶ。
大洞弁財天（長寿院）もその一つ。
元禄8年（1695）に4代藩主、井伊直興の発願によって建立された。
領内の安寧を祈願したもので、建立には、領民から各1文の奉加金を集めた。
寺院には珍しく、本堂に東照宮と同じ「権現造り」を採用したのは、
直興が日光東照宮の改修総奉行を務めたことに関係するようだ。



Hikone Castle Town
彦根城を世界遺産に

彦根仏壇

城下町の伝統産業



彦根の伝統産業の一つとして彦根仏壇がある。

漆塗り、金箔押しの仏壇で、4尺の間仏間に収める豪華さが特徴である。

工部七職と呼ばれる、各工程の専門の職人が、それぞれに工房を構え、

仏壇商がそれぞれに発注する、分業方式での製造も特徴だ。

この仏壇産業、本来は塗師や指物師さしものし、鋳職人かざりなどの武器生産の職人が転職したものとも言われるが、実際のところ、その歴史は謎である。



Hikone Castle Town
彦根城を世界遺産に

彦根市指定文化財

井伊神社

もう一つの権現造り

幕末も近づけば、藩主は祖先を神格化するなど、自らの権威を高めようとする動きが活発になる。彦根井伊家においても、これは同じで、第12代藩主直亮は、天保13年（1842）に井伊神社を創建した。井伊家の始祖 井伊共保とともに、彦根藩初代直政、2代直孝も合祀した。その社殿は豪華な権現造り、東照宮と同じ形式である。



Hikone Castle Town
彦根城を世界遺産に

名勝

お浜御殿

井伊家の下屋敷

松原下屋敷とも呼ばれる。井伊家の下屋敷として、プライベート色の強い御殿である。見どころは、庭園。琵琶湖と松原内湖に挟まれた砂洲の上に位置するという特徴を生かし、この庭園の池は、琵琶湖から直接水を引き込む方法が採用された。いわゆる、「汐入り」の庭である。海辺の「汐入り庭園」では、一日おける水位の変化を楽しむが、琵琶湖を利用したお浜御殿では、年間かけての、ゆっくりとした、そして、大きな変化を楽しんだ。



Hikone Castle Town
彦根城を世界遺産に

朝鮮通信使

学問と人格の日韓交流

江戸時代の日本と韓国的外交を担った朝鮮通信使。将軍の代替わりなど、江戸時代に12回来日し、その内10回は、彦根でも宿泊した。通信使は、国と国の正式な外交を担うだけでなく、各地で武士や僧侶などとの学問や教養による交流も活発に行った。彦根でも、岡本半介などとの公私にわたる交流が知られている。その朝鮮通信使の高官の宿泊所の一つが、キャッスルロードに面する宗安寺。また、付近の江国寺には、通信使が書いた扁額^{へんがく}も残っている。



Hikone Castle Town
彦根城を世界遺産に

私たちの彦根城

ポスター コンクール

彦根市民の方々にとって、彦根城は常に生活とともにある。
その一つが、毎年、青年会議所が主催する写生大会。自分の作品が入賞した。
そんな経験をお持ちの方々も、少なくはないだろう。
令和2年度には、彦根城世界遺産登録実現に向けてのポスターコンクールも開催された。
力作ぞろいである。

(最優秀賞品 6年 前川愛佳さん)



Hikone Castle Town
彦根城を世界遺産に

私たちの彦根城 子どもガイド

彦根城に近接する彦根市立城西小学校。

5年生になれば、彦根城のガイドに挑戦する。

自分たちが調べた、彦根城の歴史、見どころを、写真やイラストも用いて説明する。

6年生は、外国からの方々へのガイドにも挑戦する。

説明する小学生にも、聞きいる来訪者の方々にも、彦根城での貴重な時間である。

※現在は新型コロナウイルス感染防止のために休止中



Hikone Castle Town
彦根城を世界遺産に

私たちの彦根城
みんなで田植え

玄宮楽々園の中には、小さな田んぼがある。

農村の景色を再現し、藩主自らが田植え、稲刈りを行い、農民の苦勞を知り、五穀豊穡を願う、大切な行事の舞台であった。

明治以降、長らく荒れ果てていたが、2012年に復元整備が行われた。以降、市民の有志を募り、田植え、稲刈りが復活。市民みんなで、豊かな実りに感謝する。



※写真は彦根城博物館わくわく体験スクールの様子



Hikone Castle Town
彦根城を世界遺産に

私たちの彦根城 お茶の心で

江戸時代の武士たちにとって、茶道は、重要な教養であった。
中でも、井伊直弼公は茶道を極め、石州流の中に一派を立ち上げた。
その著書「茶湯一会集」の序文に記された「一期一会」。
現在も多くの場面で引用されるこの言葉は、茶湯を通じた直弼公の理想を伝える。
そして、今、世界遺産をめざす彦根のまちでは、「一期一会」の精神で世界の人々とつながり、
大切な時間を共有すべく、「茶の湯に関する条例」の制定に向け機運が高まっている。



Hikone Castle Town
彦根城を世界遺産に

名勝

青岸寺庭園

彦根城とともにあるべき庭園

青岸寺は、延文年間（1356-1361）に、佐々木道誉によって建立された米泉寺に起源があり、兵火で焼失後、慶安3年（1650）に再興された。

延宝5年（1677）、彦根城内において玄宮園の作庭が開始される。この時、青岸寺から庭園の石材が供出された。翌年、玄宮園が完成した後、玄宮園の作庭者である香取某氏が、改めて青岸寺の庭園を造った。

青岸寺は井伊家の信仰も篤く、彦根城・玄宮園とともにあるべき庭園だ。

米原駅下車



Hikone Castle Town
彦根城を世界遺産に

多賀大社

彦根藩主の信仰を集めた神社

近江を代表する古社の一つで、イザナギノオオカミ・イザナミノオオカミの2神をまつる。江戸時代、庶民の間で、お伊勢参りが大流行。「お伊勢参らば、お多賀へ参れ…」。天照大神の両親を祭神とする多賀大社は、その往路・復路に参るべき神社として、多くの参詣者を集めた。

井伊家も篤く崇敬し、1651年の直孝による社領150石の寄進をはじめ、1808年の本殿再建の助力など、井伊家の手厚い保護を得た。

多賀大社駅下車



Hikone Castle Town
彦根城を世界遺産に

井伊家と並び立つ武将

藤堂高虎

甲良町出身の築城の名人

甲良町出身の人気戦国武将。

信長・秀吉・家康の3代に仕え、伊勢・津藩32万石の基礎を作った。津は、江戸と大坂を結ぶ重要な拠点。その意味からも井伊家に並び立つ武将としての実力がわかる。

城づくりに定評があり、津城以外にも、丹波篠山城や今治城など、高虎スタイルの城郭は統治の重要拠点に多い。

出生地の甲良町在士には、天下をにらむ高虎像がある。



Hikone Castle Town
彦根城を世界遺産に

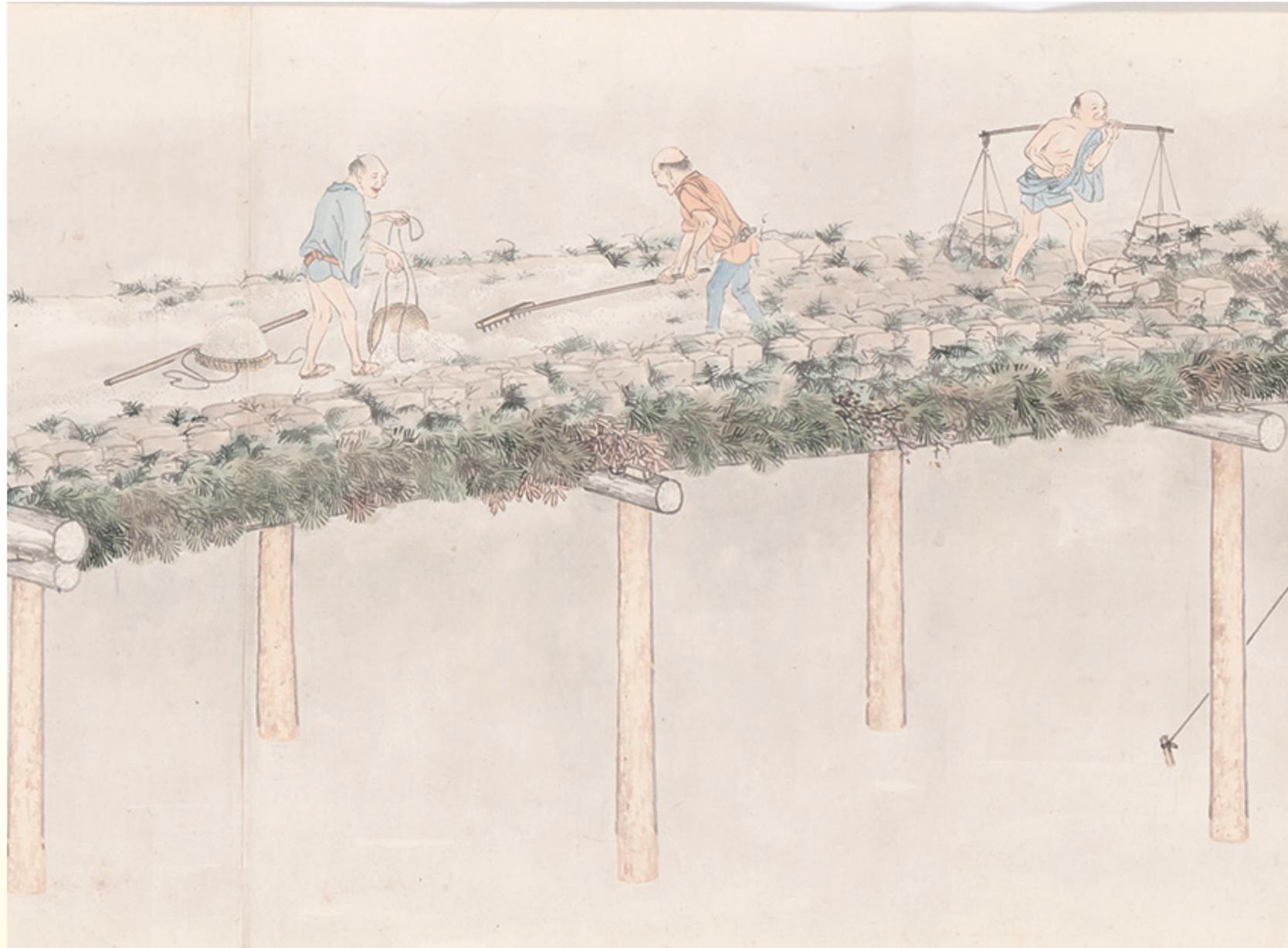
滋賀県指定名勝

あじき
阿自岐神社庭園

豊かな農村の水への祈り

その創建は明らかではないが、平安時代の「延喜式」にも記された由緒のある神社。犬上氏が創建に係わったとする説や、百済から渡来した「阿直岐氏」との関係も考えられる。事実、付近には渡来系氏族との関係を示す遺跡も多い。その神域に営まれた庭園の池は、扇状地端部付近からの湧水を利用した古い形式で、水への感謝、祈りが、庭園に表現された。こうした歴史の積み重ねが、彦根藩の繁栄へつながっていく。

豊郷駅下車



愛智河架橋絵巻（部分）・愛荘町立歴史文化博物館蔵



Hikone Castle Town
彦根城を世界遺産に

無賃橋

愛知川を渡る

川には橋が架かっている。これは当たり前のことではない。
琵琶湖へ流れる川の一つ、愛知川。江戸時代には、当初この川には橋が架けられなかった。
川を渡るには、川越人足の利用が不可欠で、16文から50文までの料金が定められ、
有力な大名行列では、仮橋が架けられることもあった。
1829年、成宮弥次右衛門と塚本助一らは、無料で渡れる橋の建設を計画。
資金調達や保証などの苦勞の末、1831年、完成。



Hikone Castle Town
彦根城を世界遺産に

重要伝統的建造物群保存地区

金堂の集落

圧倒的な農村

江戸時代から明治時代、近江の農村がいかに発達したか。この発達を支えた近江商人の実力を示す集落の一つが金堂である。

金堂は大和郡山藩の領地で、湧水の豊かな田園地帯のなかに、陣屋を中心とする農村として発達した。見どころは、弘誓寺、勝徳寺、浄栄寺などの大規模な檀家寺院と、外村家などの武家屋敷にも比肩する豪壮な近江商人の本宅。

城下町にも比肩する町なみと、清らかな水路の流れ、これが近江の農村だ。

五箇荘駅下車



Hikone Castle Town
彦根城を世界遺産に

重要文化的景観

八幡堀

水路を活かした商人の活躍

近江八幡は、豊臣秀次が安土から移した城と町が起源である。

江戸時代には、幕府領を中心に、朽木領、八幡神社領、尾張藩領などの分割や変遷があった。その激動の中にあっても、秀次が営んだ城下町の伝統を引き継ぎ、商業が発達し、西川家などの豪商を輩出した。

その背景には、八幡堀を利用した水運があり、大津、堅田とともに三親浦と呼ばれた。

近江八幡駅下車



Hikone Castle Town
彦根城を世界遺産に

布施の溜

豊かな実りを求めて

滋賀県を代表するため池である。その原型は古墳時代にあるともいわれ、平安時代の「りょうじん ひ しょう梁塵秘抄」という歌謡集にも、布施溜を詠んだ詩がある。

そして、江戸時代。このため池は布施村のみならず、10ヶ村の水源として利用され、1720年代には、彦根藩の直営工事として土手・石垣の修理が行われた。

近江の豊かな実りを生み出した溜め池。光り輝く水面が誇らしい。



Hikone Castle Town
彦根城を世界遺産に

滋賀県指定無形民俗文化財

日野祭

祭礼に見る近江商人

日野は、湖東の内陸交通の拠点の町である。

甲賀を経て、湖東各地と伊勢・伊賀を結ぶ日野は、商業・商人の町として発達した。

その豊かさは、山中兵右衛門日本宅などの商人屋敷とともに、毎年5月2日・3日に執り行われる馬見岡綿向神社の祭礼・日野祭りにみることができる。

県内最多、16基の装飾豊かな曳山の巡行と、神子や神輿などの神幸。

格式と豪華さが同居する祭礼である。



Hikone Castle Town
彦根城を世界遺産に

滋賀県指定史跡

水口城

将軍にルーツを持つ城郭

江戸時代の初期、江戸に幕府を構える徳川将軍も、必要な時は京都に行くことがあった。これに備え、将軍専用の宿泊所、休憩所が設けられた。滋賀県内では、中山道・朝鮮人街道に沿う、柏原御殿、伊庭御殿、永原御殿が、東海道には水口御殿が作られた。このうち、東海道の水口御殿が使用されたのは、寛永11年（1634）の家光上洛の一度だけ。その後、天和2年（1682）には加藤2万石の統治拠点・水口城と変化した。

水口城南駅下車